

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当 時間数
				職種	役職		
小児看護学概論 I (対象の理解)	1	1	後期	看護師	本校専任教員	専任教員	15
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ○ 該当しない				講義形式(50)% ・ 実習など講義形式以外(50)%			
評価 方法	試験 レポート			教科書・ 参考資料	系統看護学講座専門2 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)他		
概要	小児の概念と小児の健康に関わる諸問題の概要を学び、小児の成長発達及び発達課題の理解、保健医療の動向、小児に関する法律・施策を学び、小児を取り巻く社会環境を理解する。						
目標	1. 小児看護の対象者である小児を理解できる 2. 小児の成長発達の原則を述べ、成長と発達を理解できる 3. 小児の神経・精神・運動機能の発達の理解 4. 小児に関する法律と施策を理解できる 5. 小児に関する保健動向の理解						
回数	授業内容・計画						
1	自分の子ども観を考える・他者の子ども観を知る 第1章 小児看護の特徴と理念 A小児看護の目指すところ B小児と家族の諸統計 C ①②諸外国わが国の児童観・育児観の変遷 D①子どもの権利 第7章 子どもと家族を取り巻く社会 A～D						
2	第2章 子どもの成長・発達 A成長・発達とは B成長発達の進み方 C成長・発達に影響する因子 D成長の評価 E発達の評価						
3～6	第3章 乳児(A;新生児は母性看護学で学習) 第4章 幼児・学童 第5章 思春期・青年期の子ども 各時期の以下について学ぶ ①形態的特徴・身体生理的特徴・その他機能 ②感覚機能・運動機能 ③知的・情緒機能 ④コミュニケーション機能 ⑤社会的機能 ⑥生活						
7	第1章 小児看護の特徴と理念 D 小児看護における倫理 第7章 子どもと家族を取り巻く社会 A児童福祉						
8	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
小児看護学概論Ⅱ (小児臨床看護総論)	1	2	前期	看護師・保健師	本校専任教員	専任教員	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ○ 該当しない				講義形式(60)% ・ 実習など講義形式以外(40)%			
評価方法	試験 レポート			教科書・参考資料	系統看護学講座専門2 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)他		
概要	子どもと家族を看護の対象ととらえ、小児が健康な生活を送るために必要な援助能力を養い、小児看護の役割を理解する。小児看護領域における倫理観を高める基礎を養う。						
目標	1. 健康な小児の日常生活と生活習慣の理解と援助の理解 2. 小児看護の目標、役割を理解できる 3. 疾病や医療が小児や家族にもたらす影響の理解と援助の理解 4. 小児に対する処置・検査・治療への援助の理解 5. 小児に対するバイタルサイン測定、身体測定の技術を理解できる 6. 各自の小児観・小児看護観を持つ基盤を築く						
回数	授業内容・計画						
1	オリエンテーション 概論第1章D 小児看護における倫理						
2	臨 第1章病気・障害を持つ子どもと家族の看護						
3	臨 第2章子どもの状況に特徴づけられる看護 A 入院中の子どもと家族の看護						
4	B外来における子どもと家族の看護						
5	C在宅療養中の子どもと家族の看護 D災害時の子どもと家族の看護						
	臨 第7章 障害のある子どもと家族の看護						
6・7	臨 第3章 子どもにおける疾病の経過と看護						
8・9	臨 第4章 子どものアセスメント						
10	臨 第6章 検査・処置を受ける子どもの看護						
11～13	子どもと家族のアセスメント/事例を用いて						
14	概論 第1章 小児看護の特徴と理念						
	臨 第8章 子どもの虐待と看護						
15	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当 時間数
				職種	役職		
小児看護学援助論 I (主な疾患)	1	2	前期	医師 医師	津山中央病院 小児科部長 同 小児科主任部長	非常勤講師 非常勤講師	14 16
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%			
評価 方法	試験 学修意欲			教科書・ 参考資料	系統看護学講座専門2 小児看護学[2] 小児看護学各論(医学書院)他		
概要	小児期に多い疾病やその病態・治療法について、身体系統別に、病態・症状・診断・治療について理解する。						
目標	1. 小児に多くみられる疾患について理解できる 2. 疾患の症状、治療について理解できる						
回数	授業内容・計画						
1	1章 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 染色体異常各論						
2	2章 新生児 新生児の疾患、低出生体重児の疾患 成熟異常						
3	3章 代謝性疾患 新生児マススクリーニング、先天代謝異常症 代謝性疾患						
4	4章 内分泌疾患 成長ホルモン分泌不全性低身長						
5	5章 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患 気管支喘息						
6・7	6章 感染症 感染性疾患						
8	7章 呼吸器疾患 先天性喘鳴、クループ症候群、細気管支炎						
9	8章 循環器疾患 先天性心疾患、川崎病						
10	9章 消化器疾患 先天性食道閉鎖・狭窄症、胃・十二指腸の疾患、先天性腸閉鎖症、鎖肛、腸重積症、胆道閉鎖症 乳幼児下痢症、急性胃腸炎						
11	10章 血液・造血器疾患 出血性疾患						
12	11章 悪性腫瘍 小児期に多い腫瘍						
13	12章 腎・泌尿器および生殖器 腎・糸球体疾患						
14	13章 神経疾患 神経系の奇形、けいれん性疾患、髄膜炎						
15	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
小児看護学援助論Ⅱ (主な疾患に対する看護)	1	2	後期	看護師	津山中央病院 師長	非常勤講師	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%			
評価方法	試験 学修意欲			教科書・参考資料	系統看護学講座専門2 小児看護学[1][2] 小児看護学概論/小児臨床看護総論 小児看護学各論(医学書院)他		
概要	小児期に多い症状や疾病に対しての回復適応を促すための援助方法を理解する。						
目標	1. 小児に多くみられる疾患の看護について理解できる 2. 小児に多くみられる症状の看護について理解できる						
回数	授業内容・計画						
1	1章 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護 染色体異常各論のC 疾患をもった子どもの看護						
2	2章 新生児の看護 C疾患をもった子どもの看護						
3	3章 代謝性疾患と看護 A 看護総論 C 疾患をもった子どもの看護						
4	4章 内分泌疾患と看護 A看護総論 C①成長ホルモン分泌不全性低身長の子どもの看護						
5	5章 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患と看護 C①食物アレルギーの子どもの看護 ②気管支喘息						
6	6章 感染症と看護 A看護総論						
7	7章 呼吸器疾患と看護 A看護総論						
8	8章 循環器疾患と看護 A看護総論 C②川崎病の子どもの看護						
9	9章 消化器疾患と看護 A看護総論 C②その他の消化器疾患の子どもの看護						
10	10章 血液・造血器疾患 A看護総論 C②出血傾向のある子どもの看護						
11	12章 腎・泌尿器および生殖器 A看護総論 C疾患をもった子どもの看護						
12	13章 神経疾患 A看護総論 C①痙攣のある子どもの看護 ②脳性麻痺の子どもの看護						
13	18章 精神疾患と看護 A看護総論 C疾患をもった小児の看護						
14	19章 事故・外傷と看護 Bおもな事故・外傷と看護 臨床総論 5章 症状を示す子どもの看護						
15	終講試験						
留意事項							